

つながる力

《No. 1 5》



「STOP! HENOKO」 請願署名 6月10日、610,139筆 国会に提出



辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会は6月10日、昨秋より署名活動に全面的にご協力頂いた「戦争をさせない！9条壊すな！総がかり行動実行委員会」とともに、本土からの土砂採取計画の撤回を求める61万139人の請願署名を4党1会派の衆参両院国会議員の皆様へ提出しました。

目次》

《東京》6月10日、辺野古土砂全協、防衛・環境両省と交渉	中山敏則・・・2～3
《東京》防衛・環境両省交渉報告集会	中山敏則・・・4～5
《鹿児島》5月25日、辺野古土砂全協第6回総会、奄美市で開催	松本宣崇・・・6～7
辺野古土砂全協2018年度決算・2019年度予算案	・・・・・・8
《鹿児島・奄美》5.25奄美地区総決起集会 5.26奄美大島視察	点描・・・・・・9
《熊本》恐竜の島・御所浦に朗報!! 採石ストップなるか?	生駒研二・10～11
《東京》再び「本土」機動隊の沖縄派遣を許さないために	毛利孝雄・・・・12
《北九州》恐るベレオオキンケイギク・・・共通の調査票を作ろう	八記久美子・・・・13
《長崎》7.14～15 長崎市で役員会と学習交流会を開催!	阿部悦子・・・・14
《沖縄からの便り・その9》 ジュゴンの死―「幕引き」させず、広域調査を!	浦島悦子・・・・15
編集後記に代えて	16

写真提供 阿部悦子 川島なおみ 北上田毅 中山敏則 毛利孝雄 松本宣崇

6月10日、辺野古土砂全協、防衛・環境両省と交渉 本土からの辺野古埋め立て土砂搬出を止めよう！

全国自然保護連合事務局長 中山 敏則



「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」（土砂全協）と「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」は6月10日、辺野古新基地建設と西日本各地からの埋め立て用土砂採取・搬出計画の中止を求めて防衛・環境両省と交渉した。参加者は120人。

* 岩ズリの単価が高すぎる

埋め立てに用いる土砂の問題では、岩ズリの単価が異常に高いことも追及した。現在施工中の埋め立て工事は岩ズリを用いている。その単価は1㎡あたり5370円である。沖縄防衛局が2014年度に発注した「シュワブ沖(H26)ケーソン新設工事」などでは、岩ズリの単価は1870円/㎡であった。また、沖縄総合事務局が実施した那覇空港埋め立て事業の2018年度の岩ズリ単価は、本部港からの運送費を含めて7450円/㎡だ。一方、今回の辺野古新基地建設事業で用いる岩ズリは材料費が5370円/㎡、運送費を含めると1万1290円/㎡と高い。

防衛省は「資材の単価は需給のバランスなど時期により変動しうる」「防衛省としては適切かつ厳

格な予算執行と経費抑制に努めることにしている」という抽象的な回答に終始した。

* 活断層存在の可能性

立石雅昭新潟大学名誉教授ら地質学者ら十数人が辺野古・大浦湾周辺の地質を調査した結果、大浦湾の海底に活断層が存在する可能性が高いことがわかった。それを示し、「活断層の存在について改めて調査すべきではないか」と質した。

しかし防衛省は、「権威ある文献等には、辺野古沿岸域に活断層の存在を示す記載はない」「一般的に、空港土木施設や港湾施設を設置する際は、活断層は文献など既存資料による調査を実施している。現地調査までは実施していない」と答えた。

* 大浦湾の軟弱地盤

政府は今年3月15日、「地盤に係る設計・施工の検討結果」と題した報告書を国会に提出した。報告書は、大規模な軟弱地盤が広がっていると、「当初の想定よりも護岸等の安定性及び沈下に影響すると考えられる地層が確認された」と記して

いる。

この点について防衛省はこう述べるに止まった。

「報告書の内容の当否に関する鑑定では、地盤改良工事を行うことで安定性を確保した護岸と埋め立て地の施工は可能であるとの評価を頂いた。地盤改良工事は今後、沖縄防衛局において具体的な検討をしっかりと行う」



* 地盤改良工事に用いる砂の量

前記報告書によれば、地盤改良工事では敷砂・砂杭などのために 650 万 m^3 もの砂が必要とされている。これ以外にもケーソンの中詰などで大量の砂が使われる。これらを合わせると、辺野古新基地建設事業では総量で何万 m^3 の砂が必要になるのか、と質した。

防衛省は、「実際の設計・施工にあたっては、より合理的な方法を追求することになっている。地盤改良に必要な材料が確定していないことから、現時点で具体的に説明することは差し控えたい」の回答に終始した。

* 特定外来生物の侵入防止策

沖縄防衛局は、辺野古埋め立て用として西日本各地から搬入する土砂に特定外来生物が混ざる可能性が非常に高い。沖縄防衛局は特定外来生物の高熱処理を 2017 年度に実験した。しかし、膨大な量の土砂を高熱処理することは設備、経費、時間的にも不可能である。この点について質した。

防衛省は、「実験の結果、高熱処理が有効であるとの結果が得られた。特定外来生物の駆除方法は

今後、必要に応じ専門家などの意見を踏まえ適切に検討を行う」と、答えるに止まった。

* 辺野古・大浦湾は海洋保護区でない!?

次は、環境省に質した。愛知目標によれば、2020 年までに沿岸の 10% を海洋保護区にしている。辺野古・大浦湾、土砂搬出予定地の半分以上は「生物多様性の観点から重要度の高い海域」(重要海域) に該当するが、それらは海洋保護区に入るのか、入らないのか、と。環境省の回答はこうだ。

「重要海域は生物多様性の保全を目的とし、その保全施策の基礎資料となることが期待されている。抽出した区域がそのまま規制などを含む海洋保護区などの保全施策を行う対象になるものではない。辺野古・

大浦湾一帯については、環境省所管の海洋保護区にはなっていない」

「土砂搬出予定地のうち、すでに土砂搬出が始まった本部地区(沖縄県)には環境省所管の保護区はない。それ以外は、搬出場所がまだ決まっていないので答えられない」

* 海砂と鉄鋼スラグの使用

大浦湾の地盤改良工事では大量の砂が必要とされ、海砂や鉄鋼スラグの使用も想定されている。環境省はこう述べた。

「地盤改良工事のための採取場所などを把握しておらず、環境への影響について現時点で答えられない。海砂採取による環境配慮には、沖縄防衛局において適切に行われるものと認識している」

「鉄鋼スラグの安全性については、製品によって性状が異なるため、個々の事業において水環境への影響などをモニタリングにより十分に確認するとともに、地域でのていねいな説明や合意形成が重要であると認識している。」と。

防衛・環境両省交渉報告集会

全国自然保護連合事務局長 中山 敏則

6月10日、防衛・環境両省との交渉後、報告集会が開催され、辺野古土砂全協の三名の顧問、北上田毅さん、末田一秀さん、湯浅一郎さんは次のように述べた。



◆ 辺野古基地建設に合理性はない

北上田 毅さん

防衛省との交渉では鉄鋼スラグも問題になった。防衛省は「埋め立て用材料は検討中なので話ができない」と言った。鉄鋼スラグは環境への影響が大きく、検討対象から外させることが必要だ。

サンドコンパクションパイルの作業船は日本に15隻しかない。そのうち11隻を2年も3年も大浦湾にはりつけることはできない。日本中の他の海岸公共工事がストップするからだ。作業船の調達が少なくなると、辺野古埋め立て工事が遅れる。防衛省が言うように4年8カ月どころではない。かなり遅れることが確実だ。実際は15年から20年かかる。したがって、辺野古への固執は普天間飛行場の危険性を長期固定化することになる。

総工費の問題もある。県の試算では、辺野古新基地建設の総工費は2兆6500億円となっている。実際にはもっと増える。軟弱地盤がある。活断層もある。工期はいつまでかかるかわからない。

とんでもない巨額の経費がかかる。そして、自然豊かな大浦湾の環境が破壊される。それから辺野古新基地反対という沖縄県民の圧倒的な民意がある。にもかかわらず、なぜ辺野古に固執するのか。合理的な説明はない。

◆ 環境省回答は一般論に終始

末田一秀さん

環境省には生物多様性や海砂採取、鉄鋼スラグの問題を問うた。回答は一般論に終始し、辺野古問題に関する危機意識はまったく感じられない。

土砂全協はこれまで、岩ズリの搬出を問題にしてきた。本土では6県が搬出予定地となっている。海砂の採取地はそれとまったく別の箇所になる。海砂採取は、環境への影響が大きすぎるということで瀬戸内海ではすでに禁止され、熊本県も禁止した。海砂採取は環境への影響が大きいので、それをやめさせる運動が必要だ。

鉄鋼スラグは産業廃棄物だが、産業廃棄物として処分すると金がかかる。そこで、鉄鋼業界はいろいろな使い道を探している。いまは、主としてセメントに混ぜ、一部は路盤材としても使われている。

これを海砂の代わりに使うのかを確認したかった。しかし、環境省の回答は一般論にとどまった。

◆ 海砂採取が新たな緊急課題に

湯浅一郎さん

土砂全協はこれまで、辺野古への岩ズリの搬出を止める運動を続けてきた。ところが今、海砂の供給を止めることが新たな緊急課題になってきた。大浦湾

の軟弱地盤問題が浮上したからだ。軟弱地盤問題を先に解決しないかぎり、埋め立て本体工事を始められない。軟弱地盤の改良工事に海砂を使う可能性が出てきた。

海砂は、沖縄県内だけでは供給しきれない。防衛省の答弁では、沖縄県外からの海砂搬入も想定しているようだ。

◇海砂採取がもたらす環境破壊

海砂採取は、1960年代後半から90年代後半まで、瀬戸内海を中心に行われていた。瀬戸内海では、海砂採取による生態系の破壊が各地で起きた。

そのため、まず1998年に広島県が海砂採取を中止した。その後、岡山、香川、愛媛も中止した。

現在海砂を採取している県は、福岡、長崎、沖縄、鹿児島、佐賀、山口、高知、大分の8県だ。熊本県は2007年まで採取していたが、採取量を減らし、2013年以降はゼロになった。

2016年の採取量は、福岡と長崎の2県で全体（約880万 m^3 ）の約半分を採取し、3番目に多いのは沖縄県だ。鹿児島、佐賀、山口と続く。辺野古埋め立て用の海砂採取候補地は、まず福岡と長崎が狙われる可能性が非常に高い。福岡県は海砂採取の総量を規制しているが、400万 m^3 までは採取して良いとなっている。現在は230万～250万 m^3 位を採取しており、約150万 m^3 の追加採取枠があり、福岡県の響灘や玄海灘で採取が想定される。

海砂採取がもたらす環境破壊が如何に大きいかわ。それは、瀬戸内海における数十年間の経験が示している。瀬戸内海で海砂採取船。海底から強制的に海底の砂を吸い上げる。そこに生息しているエビやカニ、小魚なども砂と一緒に船の甲板の上に叩き付けられる。3～5mmの篩（ふるい）を使って砂だけを採り、魚などの様々な生物や卵は全部吐き出す。これらは濁った水として拡散し、近くの藻場にくっついたり透明度を低くしたりする。

瀬戸内海で最も問題になったのは海砂を採る場所だ。そこはイカナゴの生きる場所だった。イカナゴは6月ごろになると、夏眠する。自分の体の後ろ半分を砂に埋めて眠る。一年の半分ぐらいを夏眠して休む。1月から2月にかけて産卵する。産卵場所もこの砂地

だ。その砂をごっそり吸いとられる。つまりイカナゴは、1年間のうち大部分を生活する場を奪われたのだ。

◇当面のとりくみ

当面の具体的な取り組みとして、私たちが目指さなければならないことは何か。

まず、本土からの土砂採取計画の撤回を求める請願署名だ。今日、61万筆の署名を国会に提出した。これを何とか倍増させたい。署名集めを継続し、全国的な世論形成をしていく。それが私たちのひとつの役割ではないかと思う。

それから、辺野古への海砂供給を止めるという取り組みも必要だ。土砂全協の組織を基盤に取り組み、充分対応できると思う。海砂の保管方法や採取場所などの実態調査をしながら、この問題に対処していくことが必要となる。

岩ズリや海砂の採取候補地周辺における外来生物の分布について、実態調査を行うことも重要だ。

◇約100万種の動植物が絶滅の危機

今日の環境省交渉で私が知りたかったのは、「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム」（IPBES）の報告書への環境省の姿勢だ。IPBESは今年5月6日、「世界中に約800万種と推定される動植物のうち、約100万種が絶滅の危機にある」「海生哺乳類の33%超が絶滅の危機に直面している」とする報告書を発表した。

この報告書を踏まえると、生物多様性が非常に豊かな辺野古の海を埋めてしまうということの犯罪性が浮き彫りになる。これを何とかして止めなければならない。それが私たちに与えられた課題ではないかと思う。

交渉で、環境省はこの問題にきちんと回答しなかった。しかし、IPBESの問題に関わっている担当部局はかなり頭を悩ませているはずだ。生物多様性を後世に残していけるかどうかは、人類が直面している切実な問題だ。私たちは、彼らともつながりながら努力していかなければならない。

5月25日、辺野古土砂全協第6回総会、奄美市で開催

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会事務局長 松本宣崇

19年5月25日、沖縄平和運動市民センター議長、山城博治さんの提起を受け、「戦争をさせない！9条壊すな！総がかり行動実行委員会（以下、総がかり行動実行委）などにより首都圏では「ストップ辺野古埋め立て！辺野古新基地建設阻止」国会包囲行動、そして全国各地で辺野古新基地建設阻止の総行動が展開された。

総がかり行動実行委の提起を受け、第6回総会一連の行動は、「ストップ辺野古埋め立て！辺野古新基地建設阻止」総行動に連帯し開催することになった。そして奄美会議の提起を受け、25日午後の予定は急遽、「辺野古新基地建設阻止・奄美地区総決起集会」として、地元団体「戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット」とともに開催した。



5月25日午前開催した第6回総会では、以下の方針を確認した。

1 沖縄県土砂条例改正の陳情活動

第5回総会決定に基づき、18年7月の沖縄県議会議会与党会派議員との学習会を皮切りに、12月には沖縄県議会に6県7団体から条例改正を求める陳情を、19年3月には土砂全協として「命令規定」などを盛り込む等の陳情を行ってきた。

しかし、特定外来生物法では、特定外来生物の防除は国（所管は環境省）の責任とされ、条例で法律以上の規制は困難である。そこで、昨年8月に策定

された「沖縄県対策外来種リスト」に掲げられた特定外来生物以外の外来生物を対象とする新たな「条例」を作ることによって「命令規定」を設け、罰則規定も加えることを提起してきた。

今後も取り組みを進める。また搬出各県の外来生物対策を可能にする条例の制定に取り組む。

2 「STOP! HENOKO」請願署名の第一次提出と防衛・環境省要請交渉

①「STOP! HENOKO」請願署名の第一次提出
第5回総会決議に基づき、昨年8月以降進めてきた「STOP! HENOKO」請願署名は、本土から辺野古埋め立て用土砂の採取搬出計画が、驚きとともに市民レベル（とりわけ東日本の）に浸透し理解されてきた、そして計画抜きには辺野古の埋め立ては不可能なことが理解され、広がってきた。

平和フォーラム全国事務局、総がかり行動実行委員会など全国レベルの団体の積極的な取り組みで半年余りの期間に50万筆余りが寄せられた。署名活動は今後も継続して取り組み、12月末の第2次集約をめどに署名を続行する。

なお、請願署名第一次提出は、首都圏Gが平和フォーラムとともに近藤衆院議員秘書の協力を得て調整が進められ、6月10日に署名提出、防衛・環境両省要請交渉が行われた（1～3頁に詳報）。

②「西日本からの辺野古埋め立て用土砂採取計画の撤回を求める署名」について

また、2015年より進めてきた、「西日本からの辺野古埋め立て用土砂採取計画の撤回を求める署名」は三次にわたり合計117,310筆を内閣府に提出。昨年5月の第三次提出以降に、さらに16,262筆が寄せられ、寄せられた「署名は一筆たりとも無駄にはしない」よう内閣府に提出する。この署名は、これで最終とする（6月11日、16,252筆を

第四次提出 合計 133,562 筆)。

③ 防衛・環境省要請交渉

交渉のポイントは、(1)土砂への特定外来生物の混入防除対策、(2)軟弱地盤改良工事の設計施工・工程表、(3)地盤改良工事用材。

防衛省に対しては、昨年3月の交渉で「岩ズリは洗浄できますか」の問いに沈黙した西日本各地からの土砂採取計画における特定外来生物防除策を、さらに質していく。

大浦湾側の「マヨネーズ並み」の「軟弱地盤」の地盤改良工事について、その設計・予算・工程、650万㎡が必要とされる海砂の調達方法・調達地、海砂に代わる代替物の有無、採取による採取地の環境破壊にどう対処するのかなど、質していく。

防衛省は4月以降、他団体との交渉や公開質問状で、海砂以外に鉄鋼スラグの使用を匂わしたが、さらに追及し質していく。

鉄鋼スラグについては、沖縄から学習会開催の要請があり、具体化していくことを確認した。

4 搬出県各県への要望行動の継続・各県で外来生物対策に関する条例制定活動

- ① 沖縄県土砂条例に基づく採出県への協力要請
- ② 土砂搬出に伴う特定外来生物等の県外移動防止
- ③ 軟弱地盤改良工事用の海砂等の供給に関する情報収集を進め、当該県での具体的動きがあれば、これに対処できるような態勢を準備する。

5 全国地方自治体議会の「辺野古工事中止」意見書採択の陳情・請願

昨年12月、東京都小金井市や大阪府堺市で、さらに今年2月議会では岩手県議会で、辺野古基地建設工事中止ないし一時中断を政府に求める意見書が採択された。また、静岡市では意見書採択を求める街頭署名活動も展開された。6月議会では、愛媛県議会、松山市議会に意見書採択を求める請願活動が進められた。

地方自治体議会に対し、辺野古新基地建設工事中止ないし一時中断等を国に求める請願・陳情などの活動に取り組む。

6 辺野古土砂問題の視点から、地域での様々な運動との連携を

奄美・宮古・石垣など南西諸島への自衛隊配備、本土内米軍基地の緊急整備、自衛隊イージスアショアの国内配備、横田・岩国・沖縄の米軍管制空域の存在、自衛隊訓練空域での米軍低空飛行訓練、オスプレイ配備、米軍地位協定、日米合同委員会議事録等の不開示、米軍への「思いやり予算」・・・これらは連動し「米軍再編」、自衛隊との一体化が進行している。そして、その最新鋭の出撃基地として辺野古新基地が建設されようとしている。

これらを重く受け止め、視野に入れた活動を進める。同時に、土砂全協参加団体はそれぞれの地域において、他団体との交流と連携と問題意識の共有化を図り、総体として運動の強化を目指す。

以上の方針を確認し、予算案を承認した。



7 19~20年度役員改選について

今総会をもって任期満了となる役員改選について、設立以来共同代表を務められた大津幸夫氏の辞任の意思強く退任されました。後任に生駒研二（熊本県連絡会事務局長）、大谷正穂（山口のこえ代表）の両氏が選任され、留任の阿部悦子氏（環瀬戸共同代表）とともに共同代表就任を確認した。

顧問に末田一秀氏（環瀬戸顧問）、代表を退任された大津幸夫氏、役員には、奄美から城村典文氏（奄美会議事務局長）、徳之島から當島勝文氏の就任を確認した。顧問の板井優氏（熊本県連絡会）から体調不全のため退任の申し出あり、了承された。

会の最後、設立以来、活動を領導してこられた大津幸夫氏の共同代表退任の挨拶には、出席者から心よりの感謝を込めて熱い拍手が鳴り響いた。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
第4期(2018.4.1～2019.3.31)決算
並びに次期、第5期(2019.4.1～2020.3.31)予算案

	勘定科目	補助科目	第4期		第5期予算
			予算	決算	
収 入	前期繰越		1,443,609	1,438,009	1,408,831
	会費		690,000	1,211,000	1,040,000
		団体年会費	140,000	140,000	140,000
		個人年会費	550,000	498,000	500,000
		総会参加費等	0	573,000	400,000
	事業収入		610,000	551,493	350,000
		辺野古冊子販売	600,000	256,100	200,000
		集会シンボ等	10,000	198,873	150,000
		物品販売～琉球新報	0	96,520	0
	寄付・カンパ		800,000	1,579,268	1,500,000
	雑収入		310	11	10
		雑収入	300	0	0
		受取利息	10	11	10
辺野古基金助成		177,400	219,400	0	
合 計			3,721,319	4,999,181	4,298,841
支 出	外注費		10,000	0	0
	機関紙費		1,285,000	1,055,651	1,100,000
		封筒・振替用紙	85,000	43,265	50,000
		印刷費	700,000	610,823	600,000
		発送費	500,000	401,563	450,000
	会議費		600,000	385,460	320,000
		総会費	100,000	344,937	250,000
		役員会	250,000	13,680	20,000
		集会開催費	250,000	26,843	50,000
	旅費交通費		300,000	1,043,449	1,000,000
	通信費		70,000	47,714	50,000
	事務消耗品費		0	28,822	30,000
	資料費		0	0	0
	印刷費		0	0	0
	支払手数料		2,000	2,746	3,000
	雑費		10,000	21,620	10,000
	広告宣伝費		0	25,920	0
	物品仕入 ～琉球新報18.8.11特集		0	159,568	0
	事務費		600,000	600,000	600,000
	ホームページ開設費用		0	0	734,400
辺野古基金助成金支出-1		177,400	177,400	0	
辺野古基金助成金支出-2		0	42,000	0	
合 計			3,054,400	3,590,350	3,847,400
当期残高(次期繰越金)			666,919	1,408,831	451,441

監 査 報 告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第4期(2018年度)会計を厳正に監査したところ、
帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査 五 寶 老 基  監 査 野 田 恵 美 

5. 25奄美地区総決起集会 点描



奄美地区総決起集会 阿部代表開会挨拶



「カンパロウ！」三唱で閉会

5. 26奄美大島各地視察 点描



奄美市名瀬商店街入口に設置の憲法9条の看板



住用町市集落の採石場



護岸堤設置が問題化する嘉徳海岸



奄美大島南部に新規配備された自衛隊節子駐屯地のミサイル



新たに配備された自衛隊大熊駐屯地



海にはリーフが広がるあやまる岬公園で記念写真

恐竜の島・御所浦に朗報！！ 採石ストップなるか？

辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会事務局長 生駒研二

白亜紀資料館建て替え、博物館に、 2023年に開館予定 天草市



(建て替えが決まった御所浦白亜紀資料館)

熊本県天草市は7月20日、御所浦町で発掘された恐竜化石などを展示している御所浦白亜紀資料館を、現地で建て替える計画を明らかにした。展示スペースを大幅に拡大し、太古の時代からの天草の自然を学ぶことができる博物館にリニューアルする。2023年4月開館予定で、資料館は20年度中に休館する。

御所浦は約1億年前の地層など、様々な年代の地層が分布する「天草ジオパーク」の拠点地域。恐竜など多数の化石が見つかっており、太古の天草から年代別に体感できる展示構成を計画する。

博物館は鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積3400平方メートル。博物館部分は2760平方メートルで、うち千平方メートルを展示スペースとする。住民交流施設の御所浦地区コミュニティセンターを併設する。事業費は今後精査する。市ジオパーク推進室は「天草1億年の大地の記録を学ぶ博物館となる。自然教育活動の情報発信拠点にもしたい」と話している。

資料館は1997年、旧御所浦町総合開発センター3階にオープン。広さ230平方メートルに約千

点を展示している。収蔵品は約2万5千点と増え続けており、築39年と施設の老朽化が進んでいた。(赤池一光：19年6月21日熊本日日新聞)

上の記事は御所浦に博物館を作るというニュースだ。天草市も『御所浦まちづくり協議会』の長年の要求を受け動き出したのだ。また、不十分な医療施設がなかった島に、規模は小さくとも総合的な医療施設もつくられるようになったと、嬉しい話もあった。

さらに25日に「埋め戻し揺れる御所浦島」の記事が。この中で、御所浦まちづくり協議会の森会長は「跡地が地元の土砂以外の不要物で埋め立てられれば『産廃の島』になってしまうのではないか。子孫に豊かな環境を残したい」とし、採石事業自体も「環境破壊につながる」として、1日も早く終了するよう求めている。これに対し業者は「跡地が道路工事など公共事業の用地になるのなら、事業を終える用意がある」と主張したと。

これは大きな前進だ。島の周回道路の建設を阻んできた採石場が、開放されるのだ。しかもこの業者の採石場は、その南の跡地も含め3つ採石場の中央に位置することから、北の業者も同意したうえでの発言ではないか。島の周回道路が完成すれば、採石事業はなくなるのだ。

採石の発破などで、荒々しく剥き出しになった場所だが、逆手を取って『白亜紀の壁』をはじめ、迫力ある1億年の地層を、生かすことにもつながる。恐竜の化石が発見された現場で、子どもたちが化石採集の体験が出来たりするのだ。新しい博物館とセットとなり、魅力ある島づくりができる。

熊本日日新聞に意見広告掲載、広がる辺野古や御所浦への共感！

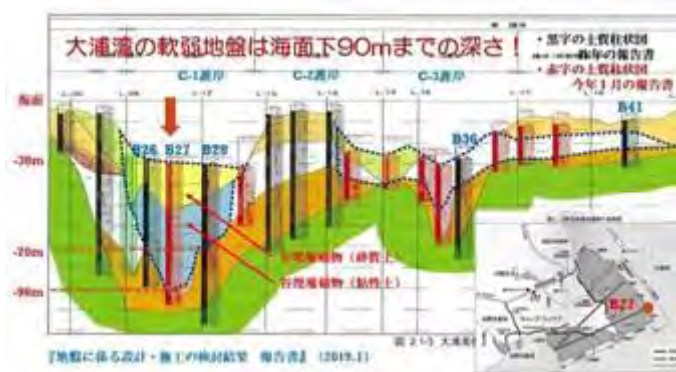
6月23日、熊日新聞紙上に意見広告を掲載しました。熊本市の「百草園」で有機無農薬野菜の栽培をしておられる、間 司さんの呼びかけによるものです。短期間に呼びかけ人会・結成総会・北上田毅さんの講演会を通じ、たくさんの賛同者が集まり、以下のような内容の10段広告を出すことができました。

・・・・・・・・・・（実際の紙面内容の半分ぐらいを、以下に示します。実際も白黒です）・・・・・・・・・・

恐竜の化石でジュゴンの海を埋め立てないで！！

天草・御所浦の土砂が辺野古埋め立てに使われようとしています！！

辺野古新基地のNO！の 沖縄の思いに熊本も応えよう！



埋戻しを採石場内の土石を使って行うことが確認されました。白亜紀の壁から南へ荒々しく剥き出しになった地層は、見方を変えれば1億年の歴史を感じる場所です。ここを採石場ではなく、世界ジオパークを目指す天草の、「恐竜の島」のシンボルの場とできないでしょうか。

沖縄の今帰仁村の沖合で1頭のジュゴンが死骸で見つかりました。世界自然遺産を目指す沖縄にとって、ジュゴンやサンゴを代表とする生物多様性に富む辺野古の海を埋め立ててはいけないと私たちは主張します。御所浦も辺野古も世界の「宝」です。

軟弱地盤に基地はつukれない！

昨年9月の沖縄県知事選、今年2月の沖縄県民投票、4月の沖縄3区衆議院補選で3回続けて、辺野古新米軍基地建設反対という民意が示されました。私達は日本政府に対してこれを無視することなく、工事を中断して沖縄県と話し合いを行うことを求めます。

昨年7月、全国知事会は国に対し【米軍基地負担に関する提言】を行ないました。これを受け私たちは蒲島知事に、全国知事会が政府と沖縄の間に立ち、公開討論会を開催するよう政府に提言することをお願いしています。

御所浦も辺野古も世界の「宝」です

御所浦は「恐竜の島」として夢のあるまちづくりを行っています。しかし一つの採石場では採掘跡地に製鋼スラグや浚渫土砂が投入されました。昨年4月、四者（事業者/御所浦まちづくり協議会/熊本県/天草市）協定が結ばれ、採掘跡地の



▲ 日本最大級の肉食恐竜の歯や、全身骨格の復元が期待される草食恐竜の骨などの化石が発見された「白亜紀の壁」

再び「本土」機動隊の沖縄派遣を許さないために —東京地裁・古田裁判長あて 激励と公正判決を求めるハガキ運動に協力を—

辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ 毛利 孝雄

高江ヘリパッド工事が、本土（福岡・大阪・愛知・神奈川・東京・千葉）から派遣された機動隊 500 名余による反対住民らの暴力的排除の中で強行されたのは、2016 年夏のことである。県道を波のように押し寄せる機動隊の情景は、今も目に焼き付いている。



高江に全国から派遣された機動隊（2016 年 8 月）

沖縄の警察には、本土と異なる歴史がある。占領下の米兵犯罪の取り締まりでは、米兵の発砲による警察官の殺傷事件も多発した。復帰後も、米軍基地と米兵による事件・事故の捜査には、地位協定の壁が立ちはだかる。

2013 年秋、オスプレイが配備される普天間ゲートで、私は 40 年ぶりにもなる「ごぼう抜き」を体験した。現在の辺野古ゲート前からは想像できないかもしれないが、排除に当たった県警はおしなべて「やさし」かった。東京に戻ってから、1 年ぶりに普天間ゲートの抗議行動に参加したときには、わざわざ警帽をとって「久しぶりです。沖縄に戻られたんですか」と声をかけられたこともある。

沖縄県警が持つ、米軍基地と米兵から県民を

守ろうとしてきた歴史、市民生活との近さなどは、辺野古新基地を強行する安倍政権にとって邪魔な感情だったに違いない。本土からの機動隊派遣は、県警への見せしめでもあったろう。

辺野古・高江での新基地建設に対し、私たちも当事者だとして本土側から声を上げる。その先駆けとなる取り組みが、本土機動隊派遣の違法性を問う住民監査請求（6 都県）であり、その後の住民訴訟（東京・愛知）だったと思う。この点は、辺野古埋立土砂搬出地が連携し、「どの故郷にも戦争に使い土砂は一粒もない」として、土砂全協を結成してきた私たちの思いにも重なる。

警視庁（東京）機動隊の沖縄派遣を違法とする住民訴訟では、「請求（提訴）棄却」を求める東京都に対し、裁判長から「機動隊派遣の必要性・相当性について、東京都はどう考えているか、具体的に主張するように」との指示が出され、10 回の口頭弁論と 3 回の証人尋問など実質審理が行われてきた。8 月 27 日に結審、2019 年末までには判決が予想されている。

●本ニュースには、東京地裁民事 3 部古田裁判長宛のハガキを同封しています。

読者の皆さんには、判決にあたり公正な判決を求める激励のメッセージを添えて、9 月末までに投函ください。切手代 62 円は、ご負担下さいますようお願いいたします。

「警視庁機動隊の沖縄への派遣中止を求める住民監査請求実行委員会」のブログは下記です。

<https://juminkansaseikyuu.wordpress.com>

恐るべしオオキンケイギク…共通の調査票を作ろう

「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会 事務局 八記久美子

■土砂搬出反対のスタートは

オオキンケイギクとともに

土砂搬出反対の運動を始めて、オオキンケイギクとの付き合いも始まりました。本稿では、観察することで感じたオオキンケイギクの怖さと、オオキンケイギクに駆逐されていく、とある花壇の状況を報告します。

■観賞用として日本に

オオキンケイギクは北アメリカ原産の多年生草本で、1880年代に鑑賞を目的に導入されました。黄色のコスモスのような花と笹のような葉っぱ。オオキンケイギクは、日本の生態系に重大な影響をおよぼすおそれがある植物として「特定外来生物」に指定され、栽培・運搬・販売・野外に放つことなどが禁止されています。また、日本生態学会が定めた、日本の外来種の中でも、特に生態系や人間活動への影響が大きい生物のリスト「日本の侵略的外来種ワースト 100」にも指定されています。

■駆逐されていく花壇

下右の写真は、20年近く私が定期的に通る道にある花壇です。年間を通して様々な花が咲いています。私がこの花壇のオオキンケイギクに気が付いたのは、3年前でした。そして今年の春。様々な花が咲いていた花壇は、半分以上がオオキンケイギクになってしまいました。

ある日、このオオキンケイギクを、高齢の女性が鎌で刈っていました。刈った後を見ると、引っ

こ抜くことが容易でないような切り株が見えました。そのうち、切り株から新しい葉が育ち、1~2か月すると、背丈は低いけれど元気な葉っぱの中に、3輪ほどの花が咲く程までになりました。「オオキンケイギクに駆逐されている」ことが実感できる花壇。これから、秋の花がどのように咲くのか、来年の春のオオキンケイギクがどの規模で咲くのか、興味が高まります。ちなみに、役所に連絡しても反応は消極的で「これでは広がる一方やね」と思いました。

■共通の調査票を作ろう

今年の5月下旬。北上田毅さんの講演会を北九州で開催した翌日、北上田さんと会の世話人で、土砂搬出予定地の採石場を回りました。改めて見ると、色んなところにオオキンケイギクが咲いています。中には、浜辺に咲いているものもありました。

帰宅後、採石場ごとの地図に、オオキンケイギクの規模がわかるように赤い印をつけ、写真を添付し、咲いている状況等の短いコメントを付けました。その時は一気に作りましたが、後はそのままになっています。改善したものを土砂全協の各団体と共有し、同じようなデータを各地で積み重ねていくと、今後の運動に役立つのではないかと考えています。また、土砂搬出問題と切り離しても、オオキンケイギクの問題は重大だと実感しています。



採石場から徒歩10分くらいの所に咲くオオキンケイギク



オオキンケイギクに駆逐されていく花壇

7.14～15 長崎市で役員会と学習交流会を開催！

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子

今年5月、奄美大島での総会で決まった今年度活動計画の具体化を相談するため、7月14日に長崎市で役員会を行った。出席したのは、大谷正徳（山口）、生駒研二（熊本）、私、阿部悦子（愛媛）の共同代表3人と、松本宣崇（岡山）事務局長、八記久美子（福岡）事務局次長の5人であった。



19.7.15 長崎市の学習交流会

翌7月15日は、長崎県の平和運動センターの平野事務局長、県議の坂本浩氏、元長崎市議の中村すみよさん、五島列島自然と文化の会の歌野敬さんらのお世話で、沖縄に関心を持つ約25人の市民が集まって下さり、学習・交流会を開催した。

「沖縄環境ネットワーク」の真喜志好一さんが、沖縄からのメッセージを持ってきて下さり、大浦湾の軟弱地盤改良工事に伴い使用の可能性がある海砂・鉄鋼スラグの学習会の講師として、土砂全協顧問の末田一秀さんが、大阪から駆けつけた。

海砂採取は、既に瀬戸内海圏域では禁止されている一方、現在福岡・長崎両県の海砂採取は、全国の採取量の約半分を占め、追加採取枠もあることから、今後海砂搬出についても反対運動が必要となる。八記久美子さんが、福岡の実態について報告された。

学習会後、長崎での海砂問題の窓口を、「平和運動センター」に置いて下さり連携して取り組むことが決まった。

以下、14日の役員会で決まったことについて報告したい。

① 請願署名活動について

6月10日に衆参両院議長あての、「本土から辺野古への土砂搬出に反対する署名」は、約61万筆を提出、引き続き今年末までは継続することが決まった。3年がかりで行った内閣総理大臣あての署名は約14万筆を提出したが、こちらの署名は今回で区切りとした。なお、軟弱地盤改良工事に伴う新たな署名活動は来年初めを目途に行うことになった。

② 海砂・鉄鋼スラグの学習会の開催

手始めに沖縄、名護で行うこととし、講師として環境・廃棄物政策に詳しい顧問の末田一秀さんを派遣する。

③ 「オオキンケイギク」繁殖状況調査について

環境省が、「特定外来生物」に指定するオオキンケイギクは土砂搬出各県に繁殖しているが、その生態について採石場近辺の実態調査を行うこととし、来春花が咲く時期までに、統一した調査のフォーマットを作り、体系的科学的な資料として使えるよう準備をしていく。

④ 来年度の総会について

香川県で行う。宿泊は高松市で、翌日のフィールドワークは小豆島で。「郷土の土で辺野古に基地を作らせない香川県連絡会」「小豆島環境と健康を考える会」のお世話になる。

他に、各県の県当局や議会に対する働きかけについて、会報やMLで共有することや、昨年から取り組んできた「ホームページ」を早期に仕上げること、会報「つながる力」の企画などについて話し合われた。



沖縄からの便り
《連載 No.9》
いちやりば
ちよーでー

ジュゴンの死

「幕引き」させず、広域調査を！

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子

去る3月18日、今帰仁村運天漁港にジュゴンの死体が漂着した。沖縄防衛局が辺野古新基地建設に向けたアセス調査で確認しているA,B,C、3個体のうち、今帰仁村古宇利島周辺海域を主な生息域としていた雌のジュゴンB(Cの母親)だった。



ジュゴンは沿岸域に生える海草だけを食糧とし、その生息域が人間の生活圏と重なるため、人間活動の影響を大きく受ける。かつて琉球諸島沿岸に普通に生息し、ある時は食糧として、ある時は海からの情報の伝え手、海神の使いとして、この島々に住む人々と物心両面において密接なかかわりを持ってきたジュゴンは、捕獲管理を行っていた琉球王府が明治政府に滅ぼされて以降、乱獲、沖縄戦、米軍基地建設や復帰後の乱開発による沿岸域の破壊など、沖縄の苦難の歴史と重なる受難の道を辿り、数を減らしてきた。

絶滅に瀕した沖縄のジュゴンの生息環境を守りたいと、20年ほど前から食み跡・食性調査や、広報活動を続けてきた私たち地元のジュゴン保護市民グループは、沖縄県民がどんなに反対しても国家権力が民意を押しつぶして強行している辺野古新基地建設の進行に伴って、親離れしたC(雌雄不明)が独自の餌場としていた辺野古・大浦湾海域から追い出され、大浦湾に隣接する嘉陽海域に20年以上定住していたA(雄)も行方不明になる中で、繁殖の可能性を含め次世代への希望を繋いでいたB子さん(私たちは親しみを込めてそう呼んでいた)の死に大きなショックを受けた。

沖縄防衛局が古宇利島周辺海域に設置した水中録音装置に、死体漂着4日前の14日、ジュゴンの鳴音

が「通常を大きく上回る頻度」で記録されており、この日に何かがあったことが判明した。B子さんの生息域は、本部半島から辺野古の埋め立て土砂を運ぶ運搬船の航路と重なるが、防衛局は早々に新基地工事の作業船の影響はないと発表した。しかしその公開資料を見ると、民間船のAIS(船舶自動識別装置)は生データが表示されているが、土砂運搬船の航路は生データではなく防衛局が作図したものであり、「影響はない」ことを裏付けるものではない。

私たちが環境省・沖縄県・今帰仁村に対し、死因究明を求める要請を何度も出す中で、今帰仁村漁協の冷凍施設に4カ月も放置されていたB子さんの解剖が7月17日、前記三者によって行われ、29日付で解剖結果が正式に発表された。沖縄近海に生息するオグロオトメエイの尾棘刺入に起因する死亡の可能性が最も高いという。多数の鋸歯状の突起を有する長さ約23cmの尾棘が腸管を突き破り、腸の内容物が腹部全体に充満していたというから、B子さんの痛み・苦しみを想像するだけで苦しくなる。沖縄美ら島財団、鳥羽水族館、国立科学博物館の獣医師6名が携わったという解剖結果に恐らく間違いはないと思われるが、しかし、これで「幕引き」させてはならない。

直接の接触がなかったとしても土砂運搬船の頻繁な航行が海生生物の生態を攪乱し、通常ありえない事故が起こった可能性はある。今回の事故を遠因も含め究明すると同時に、AとCの行方、3頭以外にも少なくないジュゴンの目撃情報をもとに琉球諸島全域調査を環境省と沖縄県は早急に行ってほしい。沖縄沿岸域にジュゴンの生きられる環境を取り戻すことが、苦しんで亡くなったB子さんに報いる道だと痛感している。

編集後記に代えて

(松本) 写真は7月14日、長崎市で役員会を開催したときの記念写真です。左から、事務局長・松本(岡山)、事務局次長・八記(福岡)、共同代表・大谷(山口)、生駒(熊本)、阿部(愛媛)。

こんなメンバーで活動を進めています。ご協力のほどよろしくお祈いします。



紙面の都合で、詳しく紹介できなかったこととして、この場で簡単に報告しておきます。

一つは、首相あて「辺野古埋立て用土砂採取計画の撤回」を求める署名第4次提出

6月10日の請願署名第一次提出に合わせて、6月11日、糸数慶子議員の紹介で、署名第四次分16,252筆を提出、内閣総理大臣あて署名は、合計133,572筆となりました。

二つは、「沖縄県希少野生動植物保護条例(案)」に対するパブコメ

沖縄県は、6月29日、「沖縄県希少野生動植物保護条例(案)」を発表し、7月29日を期限にパブリックコメントを募集しました。

ところが、命令権の執行や立ち入り権の規定にあいまいさを残しており、その是正を求める意見書を提出しました。県の提案した条例案であり、沖縄県民の声・意見が大切です。沖縄環境ネットワークや島ぐるみ会議・名護、本部町島ぐるみ会議などが、パブコメに取り組みました。

「STOP! HENOKO」 請願署名にご協力を

辺野古土砂全協では、請願署名を昨年8月より進め、去る6月10日、全国の市民・団体の皆様のご協力を得て、61万筆余を国会に提出しました。

土砂採取計画が生物多様性条約・外来生物法、そして閣議決定「生物多様性国家戦略」に反する行為であることを訴え、土砂計画の撤回を求める国会への「請願署名」です。

引き続き、2019年度12月末を第二次集約期限として、署名活動を進めます。是非ともご協力をお願いします。

署名用紙ご希望の方は、下記、辺野古土砂全協事務局までご連絡下さい。

2019年度会費のお願い

土砂全協は5年目に入りました。2019年度団体・個人会費のお納めをお願いします。

カンパ、熱烈大歓迎です。

すでに納入された方にも振替用紙を同封しています。ご容赦下さい。活動は会費とカンパに支えられていることにご理解をお願いします。

郵便振替 番号 01750-8-144158

名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi_etsuko@yahoo.co.jp
生駒研二(辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会)
大谷正穂(「辺野古に土砂を送らせない!」山口のこえ)

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

事務局 〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927
カンパ等の送金先 郵便振替 01750-8-144158 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会